

子育て



子育てについて、さまざまな面から取り組んでいる団体を紹介します

うれしい子育てサポート 企業のバックアップ

山形カシオ株式会社 FILE:01

県内第一号 子育てサポート 「くるみん」の認定

次世代育成支援対策推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、一定基準を満たしたことにより申請の結果、山形労働基準局より基準適合一般事業主として、東根市大森工業団地にある山形カシオ株式会社（代表取締役社長磯崎雅樹氏）が県内第一号に認定された。

少子化問題が取りざたされる昨今、「子育てサポート」の言葉が暖かい。

そこで同社を訪問させて頂き、二度目の育児休業を取得された松田朋子さん、男性で初めて育児休業を取得された竹田茂樹さんにお話をうかがった。

ん、人事課の志田正之さん、大河原亨さんにお話をうかがった。

女性の育児休業取得率は100%

「育児休業はほとんどの女性が取得しているので、心おきなく育児に専念できた。取得に当たっては家族みんながよろこんでくれた。中でも子どもが一番よろこんでくれた。」と松田さん。



育児休業取得 男性第一号

昨年12月末、三番目の子どもさんが育児休業の対象となる四ヶ月の時に、二ヶ月間取得された竹田さんは育児休業取得男性第一号。

「男性初の育児休業を取得するに当たっては、前例がないので職場の人に迷惑をかけるないように心がけた。職場復帰のことを考えると二ヶ月が丁度いい期間だった。毎日過ごすことによつて妻の大変さが理解できたし、育児休業を取る前と後では、子どものなつき方が変わり、父親の存在が大きくなった。以前は土日家にいてもどこかの叔父さんだった。（笑）冬だったので家の前でそり遊びをやったのだが、子どもに遊んで貰ったような…。これで生きていけるのならば…（笑）自分が幸福感を味わったし、子どももしあわせだったと思う。」と。

職場復帰前研修制度

一年間の育児休業を取った後、職場復帰が出来るのは美に羨ましいはなし。



「職場復帰の一ヶ月前に、復帰に当たっての心構えとして、職場復帰研修がありますので安心して職場復帰ができます。」と松田さん。

企業の取り組み方

育児休業（無給）の取得についても、男女区別なく取得出来るということを全員に周知徹底させる必要があったので、アンケートをとりながら管理職の研修会なども開き、全従業員に小冊子「両立支援ハンドブック」を手作りして配布をした。その小冊子はいつでも手にして読めるように携帯し易い大きさにつくった。Q & Aで内容をわかりやすく工夫をこらし、とくに男性の育児休業取得に関する項目は、奥様へのアピールを考えて切り離せるようにしたと人事課のお二人。

企業は人 人は財産

当社は人を大事にするのが基本理念。「やれるところは精一杯やってみよう。」福利厚生面では、全ての人が対象という会社の方向性が決まっているので協働体制ができていてバックアップが万全です。今その考えが大事な時代になってきました。企業は人 人は財産ですと強調された。

絵本とあそぼう〜夏の巻〜

山形市立図書館 FILE:02

♪ あかいふうせん
る・る・るーん
そとと そらにあげたら
ふわふわわあー ふわふわわあー
ほらほらうら りんごになった

「りんご おいしいね。りんご すきなひと…」
「はあ」「はあ」
6月24日(日)午前10時30分。

絵本とあそぼう〜夏の巻〜の会場、山形市立図書館、2階の集会室の中に、読み聞かせのボランティアサークル くまさんの会の会員が歌う明るい歌声が響いた。

●図書館を訪れたところ、タイミング良く、絵本とあそぼうの館内放送を聞きつけたので、「行って見ようか」と3歳ぐらいの男の子の手を引いて2階に駆け上がった。きたという30歳の若いお父さん。平日の読み聞かせ会には助め関係係でどうしても出席出来なかったので、二人で今日の日を楽しみにしていたという小学校の先生等、市内から集まった16組の親子連れ(約40人)が、ボランティア手作りのうちわの絵に釘付けになった。

●くまさんの会のメンバーの透き通った歌声と共に手に持つうちわの色が白、オレ



まあるくなーれ まあるくなーれ

ンジ、青、黄色、緑と変わる頃には、すっかり会場の雰囲気慣れた子ども達の声が明るく元気に響いてきた。

最初は慣れない雰囲気にとまどったのか、お父さんにぎゅとしがみついていた男の子がいつの間にかすつかりとけ込んでいる様子が端から見えていて手に取るように分かる。

周りの雰囲気もさることながら、やはりくまさんの会のメンバーの持ち得た、ペテランが故の独特の魅力がそうさせるのだらう。

生まれて未だ日の浅い赤ちゃんを抱いている若いお父さんが目に入る。

そはのお母さんの膝には2歳ぐらいの女の子。その姿が明るく、そして、ほのほのとしてみえてきた。この若い夫婦は、今日の読

み聞かせ会に参加して色んな事を得たのではないだろうか。その後読み聞かせ会が終わってから、若いお父さんにお話をうかがったとき、「この子が泣いたので、部屋の後部に行ったり部屋から出たりしていたから全部きけなかったのだから」ともおっしゃっていた。が、そのことを聞いて夫婦でこうあるべきだなあとつくづく思った。

赤ちゃんがむずかっている間でも、お母さんは何の心配もなく上の子ともさんと一緒に楽しい読み聞かせ会に参加出来たのだから。

子育ては母親だけがするものではないということは何気ない動作や言葉からおしえられる。

●プログラムの後半は、わらべうたであそぼうの時間。

まあるくなーれ まあるくなーれ
お父さんもお母さんも一緒に
まあるくなーれ

のかけ声で参加者全員が手を繋ぎ大きな円

●1時間が全て終了した後、静まりかえった会場には読み聞かせ会のメンバーが、円陣を組んで次回の読み聞かせの会の準備に余念がない。色々プログラムを組んでいても、当日の参加者の年齢層、人数などによって変更する場合は有るといふ。

メンバーの数々の努力と誠意が有つてこそこの会が長く継承されているのだ。

今回の「絵本とあそぼう」

○冬の巻 平成19年12月9日(日)
○春の巻 平成20年3月9日(日)
そのほか、毎週水 木曜日実施
詳しくは山形市立図書館まで
☎023-624-0822